

【短報】御蔵島からのキスイムシ科の記録

伊豆諸島御蔵島の甲虫相は澤田・渡辺 (1969) によってまとめられているが、キスイムシ科 (ヒラタムシ上科) の記録は含まれず (現在ではオオキノコムシ科に編入されているキイロムクゲオオキノコ *Cryptophilus cryptophagoides* Grouvelle, 1916 がキスイムシ科として報告されているのみ)、その後も御蔵島からは本科甲虫の報告は一切ない。

筆者は調査の認可を取得して御蔵島に 2013 年 5 月 11 ~ 17 日の期間に滞在し、わずかながらキスイムシ科を確認した。

今回の調査で御蔵島から得られた種を記録するとともに、伊豆諸島全体の既記録をまとめて報告する。

1. クロモンキスイ *Cryptophagus decoratus* Reitter, 1874

1♂, 東京都御蔵島村里, 14. V. 2013, 筆者採集・保管.

伊豆諸島および御蔵島初記録. 個体変異が大きく同定困難な種であるが、典型的な個体をもとに記録する。

日本のほか、中国 (福建省, 貴州省, 湖北省, 江蘇省, 山西省, 四川省, 雲南省, 浙江省), 香港, 台湾, 極東ロシアと旧北区東部にかなり広く分布する種である (Lyubarsky, 2014).

2. *Cryptophagus* sp.

1♂, 東京都御蔵島村里, 16. V. 2013, 筆者採集・保管.

本種は、カワリキスイ *Cryptophagus varians* Grouvelle, 1919 の種名で八丈島から記録されている (川畑, 2009)。カワリキスイは、Johnson (2007)

がタイプ標本を検した結果として、ヨツモンキスイ *Cryptophagus callosipennis* Grouvelle, 1919 とともに前種クロモンキスイのシノニムにしている。ただし、写真で示したものは、クロモンキスイと比べると脚や触角も細長く、前胸側縁の突起の形状からも明らかに区別できる別種で、国内の少なくとも関東地方以西ではかなり普遍的にみられる種である。佐々治 (1985) は、ヨツモンキスイの分布域に八丈島を入れたが、図版の標本写真から判断して本種のことを指していると思われる。

3. クロノコバキスイ *Henoticus sinensis* Bruce, 1943

1♂1♀, 東京都御蔵島村里, 16. V. 2013, 筆者採集・保管.

御蔵島初記録. 伊豆諸島からは八丈島から記録がある (川畑, 2009) .

これまで日本産に関しては、*Henoticus japonicus* Nakane et Hisamatsu, 1963 の学名が当てられてきたが、Johnson (2007) は Bruce が中国福建省から記載した種のシノニムにしている。本種は、中国 (福建省, 桂林市), 台湾, 朝鮮半島, 日本, インド (シッキム), ネパールと旧北区東部にかなり広く分布する (Lyubarsky, 2014).

4. ノコバキスイ *Micrambe (Micrambe) micramboides* (Reitter, 1874)

1♂, 東京都御蔵島村里, 13. V. 2013, 筆者採集・保管.

御蔵島初記録. 伊豆諸島では八丈島から記録がある (佐々治, 1985; 川畑, 2009).

日本以外からは記録がない種である。

以上、御蔵島からは 3 属 4 種が確認された。す



図1. 御蔵島産キスイムシ科. A, クロモンキスイ; B, *Cryptophagus* sp.; C, クロノコバキスイ; D, ノコバキスイ (スケールはすべて0.5 mm) .